



METI

Ministry of Economy,
Trade and Industry

METI関東 国際展開支援 について

平成22年10月5日
関東経済産業局

桐生繊維産業の海外展開に向けた体制

支援ツールの提供

中小企業基盤機構

専門家派遣支援事業
(海外出展に対する事前アドバイス)

桐生繊維
関連企業

出展

TENT
LONDON

関東経済産業局

地域産業資源活用事業 (新製品開発)
海外販路開拓支援事業 (販路開拓)



[TENT LONDON会場風景]

関東経済産業局

- ✓ 関係機関と実施体制構築と協働をプロデュース
- ✓ 出展企業へのきめ細かい事前情報の提供
- ✓ 出展企業の情報を発信

※TENT LONDON

TENT LONDONは、2006年にThe Old Truman Breweryにて開催された展示会の成功を受ける形で新たに始めたインテリアトレードショー。規模は比較的小規模だがクラフトショーとしてはレベルが高く、英国では高く評価。

実施体制の構築

群馬県

- ✓ 同行による現地サポート

桐生市

- ✓ 事前勉強会の開催

在英日本大使館

- ✓ 展示会場での激励

JETROロンドン

- ✓ 現地繊維産業の情報提供

自治体国際化協会

- ✓ 県の現地機能を代行

展示会企画運営会社

- ✓ 展示内容、方法の提案と準備

現地コーディネータ

- ✓ 販路開拓と展示会の調整

桐生繊維産業の海外展開支援 (TENT LONDON出展)

○概要

これまで、関東経済産業局は繊維の産地である群馬県桐生市の関連企業に対し地域産業資源活用事業等によりブランド力のある製品開発を支援。その成果をもって海外への新たな販路開拓をするため関東局に支援を要請。

→これに対し当局では、前衛的でモダンなデザインプロダクト、インテリア、アートなど幅広い分野に渡り世界的にも評価の高い国際見本市「TENT LONDON」(2010/9/23~26)出展を中心とする販路開拓をプロデュースするとともにミッション(6社)に同行。

○局の取り組み

- ・ プロモーション方法(国際展示会など)の提案
- ・ 展示会の企画・運営者と繋がりのある現地コーディネータの紹介
- ・ 展示会の企画・運営者と出展企業との事前調整及びミッションへの同行
- ・ 日本大使館、ジェトロ、自治体国際化協会、群馬県、桐生市等との連携

○具体的な成果

- ・ 松井ニット技研とコートールド美術館[ロンドン]との間で商談が成立(同社「KNITTING INN」ブランドでの販売が実現)。さらに、欧州の他の美術館や大手デザイナーズブランドとの商談も進行中。
- ・ 出展企業からは「コーディネータや通訳のレベルが非常に高い」、「現地コンタクト先を持てたのは大きな収穫」、「最低でも3年間くらい出展し続け成果をみたい」、「引き続き局のコーディネート機能に期待」等のコメントあり。



[展示会オーガナイザーとの事前打ち合わせ]



[TENT LONDON会場風景]



[商談が成立した松井ニット技研の製品] 2

TENT LONDON 関連記事

朝日新聞群馬版 9/24

朝日新聞 群馬版 9/2

桐生発マフラー 英国へ



松井ニット技研 製品

桐生市の松井ニット技研(松井智司社長)のマフラーを、ロンドンの美術館が販売を始めた。ニューヨーク近代美術館(MOMA)のデザインストアで売り上げ1位を続けるマフラーは、約40の国内美術館でも販売されているが、欧州は初めて。(大道裕宣)

ロンドンの美術館が販売

松井ニットの製品の販売を始めたのは、大英博物館や国会議事堂の近くにあるコートールド美術館、実業家のサミエル・コートールド氏のコレクションを元に、1992年に設立された、印象派、後期印象派の絵画を中心に集めてきた。きつかけは、今年1月にパリで開かれた家庭用品の見本市「ヌン・エ・オブジェ」への出展。そこを訪れた同美術館のナイジェル・ティックマン総務部長が一目で気に入り、松井ニットのマフラーを持ち帰った。自分の美術館で販売したいと考えたが入手法が分からず、そのままになっていた。

松井ニットはロンドンでの展示会に出展するため、7月から現地の代理店に市場開拓を依頼した。メノン・エ・オブジェに英国からやってきた客の名簿を代理店に渡し、コートールド美術館で販売される松井ニットのマフラー

多色使い、見本市で一目ぼれ

この、コートールド美術館に行き着いた。7月に松井敏夫専務(67)がロンドンを訪れた際に美術館を訪問し、商談が成立した。

初回の発注はマフラーだけでなく、帽子、手袋も含めて合計で230点、全量買い取りのうえ、美術館ブランドで売るMOMAと違い、松井ニットのブランド「KNITTING INN」で店頭に出るなど、松井ニットの要求をすべて認めてもらった。8月末から販売している。

この美術館の中庭は冬場、スケートリンクとして開放される。松井専務は「リンクにうちのマフラーがなびいていたら楽しいですね」と話している。

松井ニットのマフラーは縦じまで、8種類前後の色を大胆に組み合わせた色づかいが特徴。桐生市在住の世界的テキスタイルプランナー、新井淳一さん(78)は、独特な色彩感覚で知られるイタリアブランドのミッソーニになぞらえて「日本のミッソーニ」と高く評価している。



カラフルなマフラー、ニット帽(松井ニット技研)
織物でくんだりす、テーブル(丸中)

和紙を織り込んだシート(シレース)

eureka CF SLEEP MADE IN JAPAN
低反発のマットレス(ユーリカ)

ソファカバー(加榮レース)



水を含んだ風呂敷(朝倉染布)

県産品海外進出狙え 桐生の6社 ロンドンの展示会出展

今秋、ロンドンで開催されるインテリアや織維製品の展示会「TENT LONDON」に、桐生の6社が出展することになった。県産品の海外展開を支援しようと、NPO法人・県ものづくり研究会(古賀義明理事長)が出展企業を募り、主催者の審査を経て選ばれた。織維を中心とした技術力、デザイン力、海外市場開拓に向けた積極的な姿勢が国際的に評価された。

出展するのは、松井ニット技研(松井智司社長)、出展品はマフラー、ニット帽など。▽シレース(中野隆雄社長、和紙を使ったシートなど)▽朝倉染布(朝倉剛太郎社長、廻撥水加工をした風呂敷)▽加榮レース(加藤伸三社長、伸縮性のあるニット生地)▽丸中(篠田二社長、織物でくんだりテーブルなど)▽ユーリカ(武田佳社長、低反発マットレスなど)の6社。

国の地域産業集積海外展開支援事業。ものづくり研究会が県の産業の中核は自動車関連と織維関連と判断し、この部門で出展企業を募った。うち自動車関連部門は今月、上海で開催された展示会に、太田市や伊勢崎市、高崎市の5社が出展した。

織維関連部門には、10社から問い合わせがあり、最終的に7社が応募した。この7社の製品の生地や写真などの「TENT LONDON」事務局に送って選定を求め、桐生市の6社の出展が認められた。

研究会がこの事業を担うものづくりコーディネーター、市川栄一さん(42)は、「高時や前橋にも織維関係の企業は多く、出展企業は地域がばらつくと思っていた」という。結果的には桐生の企業が強占したことになる。桐生の企業には、デザインを含めて海外に運ぶものを作るという意識込みがあるのではないか」と話す。

TENT LONDONは、8月1日から4日間開かれ、インテリア関連のバイヤーやメディア関係者が訪れる。研究会は群馬県のブースを作り、6社の製品を展示する。市川さんは、今回の6社は、ボタが、うま、かかれはほとんど前に行方を持っていく。今回の展示がそのきっかけになって欲しい」と期待している。